

令和三年度

入学者選抜学力試験問題

国語

受験番号

注意 答えは、すべて解答用紙に記入しなさい。
問題作成の都合上、本文を一部変更しました。

一 次の —— 線部の漢字の部分はひらがなに、カタカナの部分は漢字に直して書きなさい。

- ① 母の**田舎**に帰省する。
- ② けんかを**裁**く。
- ③ 水面に**波紋**が広がる。
- ④ **寸暇**を惜しんで勉強する。
- ⑤ EUへの**加盟**が決定した。
- ⑥ 能力に**カクダン**の相違がある。
- ⑦ 両親の**カイゴ**をする。
- ⑧ **モウジュウ**の**檻**^{おり}には手を触れないように。
- ⑨ **シボウ**分の取りすぎに注意する。
- ⑩ **アワ**い期待を抱く。

【二】 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「リハーサル、聴いたわよ」

千尋先生はそう言¹って、右手で髪をかきまわした。そんなに不出来だったのだろうか。

I

「あのね、直前にこんなことを言¹ってごめんね。でも開君、集中できてなかったでしょ。全然ダメだった」

先生は生徒である開の音だけを耳で選¹び、じつと聴いてくれていたのだろう。

「理由は…：お父さんたちのコンサートのこと？」

「はい」

II

離婚のことまでは、A 打ち明けられなかった。

「今だけは忘れて、この演奏に集中しなさい。お父さんたちの方を心配するくらいなら、このステージには出ない方がいい」

千尋先生の瞳は厳しい色をしていた。

わかつてる。わかつてるんだけど…。

「開君、音楽には魂を込めなくちゃダメ。魂を込めたステージでないと本当にいい音を響かせることはできないし、人の心にも響かないよ」

III

魂。ぼくの魂は今どこにあるんだろう？

「わかってるんです。父さん母さんにも、重松シンフォニーに集中しろって言われたし…。」

「ご両親に言われたから？ だからがんばるの？ 開君はもう子どもじゃないでしょ。誰かに言われたからって理由でステージに立³っていては、プライドのこもった、いい音なんて一生出せません」

開はしばらく千尋先生の顔を見つめたあと、遠くに視線を移した。

先生の言葉が頭の中で繰り返される。

魂を込めたステージでないと――

誰かに言われたからって理由でステージに立³っていては――

「そうですね、先生。ありがとうございます」

開は自分の意思で決断した。

IV

楽屋に飛び込んで、バイオリンをケースに入れる。京都君が驚いた顔をしていた。

「どうしたん？」

「ごめん。やっぱりぼく、ここでは演奏できない」

京都君は笑った。

「なにアホなこと言うてんねん。そんなことしたら重松先生にしばかれるぞ。ザルツブルクにも行か
れへんようになるし」

「うん。でも決めたんだ」

開の真剣な顔を見て、京都君も真顔になった。

「そうか。ま、俺らとは今日やなくても、これからなんぼでも一緒に演奏できるやろうしな」

「ありがとう」

開はいつか一緒に演奏することを心に誓って、京都君が黙って差し出した手を強く握った。バイオリンのケースを手を⁵息を切らせてロビーに出ると、千尋先生がまだソファに座っていた。「今から向かえば後半には間に合うと思います。ありがとうございました」

開はもう一度、千尋先生に頭を下げ、バイオリンケースを背負って駆け出した。だが、外につながる廊下にはキタハラが立っていた。

「開君、どこへ行く？」

⁶ 開はキタハラの目を見ることができなかった。

「すみません。ぼく、家族コンサートの方に行きます」

キタハラの眼鏡の奥にある目が、大きく見開かれた。

「大舞台だぞ。偉い方々もたくさん観にいらしている。重松先生の顔もある。どうなるかわかって言ってるのか」

「ひどいことをしてるって、自分でもわかってます。

B 決めたんです。このままここで演奏して

も、いい演奏はできませんから……」

開は顔を上げ、キタハラの目を強い眼差しで見た。

「ぼくが今、一番いい音を出せるのは家族でのステージなんです！そこにぼくの音楽があるんです！」
開はキタハラの両手を振り切って、外に飛び出した。

(鬼塚 忠 『カルテット!』)

問1 空欄Ⅰ～Ⅳを補うのにふさわしい文を次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

ア 千尋先生を見るその顔は、大人の男のものだった。

イ 開の隣に先生が腰を下ろした。

ウ 開は小さく頷いた。

エ 先生は強く言った。

問2 —— 線部1の千尋先生の心情として、ふさわしいものはどれか、次の中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 開に演奏が良くなかったことをどう切り出そうかと考えている。

イ 髪の毛のことが気になって演奏される音楽に集中できないでいる。

ウ 開の音の出し方はオーケストラをかき回すようなものだと思っている。

エ 出来ない演奏を反省している様子が見られないのが気になっている。

問3 空欄Aに入る適当な語を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア まるで

イ とても

ウ だんだん

エ ようやく

問4 —— 線部2について、「……」に込められた気持ちを、本文中の語を用いて十字以内で答えなさい。

問5 —— 線部3「しばらく」の品詞名を答えなさい。

問6 —— 線部4「京都君は笑った」のはなぜですか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 開が海外(ザルツブルク)での演奏を断念したから。

イ 京都君が開の言動を見て本気とは思えなかったから。

ウ 開が重松先生の顔に泥を塗ろうとしたから。

エ 京都君が開のひそかな企みに気がついたから。

問7 —— 線部5「息を切らせて」から読み取れる開の気持ちを、解答欄に合うように十五字以内で抜き出しなさい。

問8 —— 線部6「開はキタハラの目を見ることができなかった」のはなぜですか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア キタハラから強く迫られて、恐怖心のあまり顔を上げられなかったから。

イ 大舞台で演奏するほどの力量が自分にはないとわかっていなかったから。

ウ 重松シンフォニーに関わる人たちに迷惑をかけてしまったから。

エ 自分が悪ふざけをしていたのをキタハラに知られてしまったから。

問9 空欄Bに入る適当な語を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア でも

イ だから

ウ また

エ なぜ

問10 —— 線部7「キタハラの目を強い眼差しで見た」開の心情として、ふさわしいものはどれか、次の中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 今の自分なら大舞台でいい演奏ができる自信がわいてきている。

イ 本当の敵はキタハラだったのだとわかり、対決しようとしている。

ウ キタハラに対する不平不満を、ここで一気に吐き出そうとしている。

エ 迷いが吹っ切れて、自分の進むべき道を行こうとしている。

③ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

これから自分が生きていくとき、何が起こるのかは、現在の時点でまだ誰にもわからない。東日本大震災のとき、原発事故が起こった。そこでは「想定外」という言葉が頻繁に用いられた。

私たちのこれからの時間、将来の人生に起こることは、すべて想定外のことなのである。想定外の事態を、なんとか自分だけの力で乗り越えていかなければならない。生きるとはそういうことである。運動をするにはそれなりの基礎体力をつけなければならぬと同様に、これから何が起こるか分からない想定外の問題について自分なりに対処するためには、それなりの体力が要求される。私はそれを「¹知の体力」と呼んでいる。

それは知識の習得である以上に、どう考えればその場を乗り切れるのかという、考え方の訓練なのである。知識を持っていることは、もちろん大切なことであるが、それは²弾力的な知識でなくては、実際の応用には役に立たない。単に教科書に書かれている通りに覚えている知識では、自分が現場で出くわした初めての体験にそれを応用するには、まだ硬すぎるのである。

知識を解きほぐし、応用可能なまでに自由に伸び縮みできるようにするためには、その知識が、どのような多くの人々の試行錯誤のもとにもたらされたものなのか、それが作り出された³Aを知り、その知が^注Bできる外延をなぞり、かつその知によって自分のすでに得ていた知の体系が再構成される必要があるだろう。

「⁴I ならどう考えるか」というときに、それまでに先人たちがどのように考えてきたかを学ぶことは、具体的に何かの役に立てるといふ勉強以上に重要な意味を持っている。「生命」というものについて、どのような見方が交錯し、次第にその真理に近づいていったかについては、のちに少し詳しくみることにするが、われわれが疑うこともない常識としての知も、それが確立するまでには、さまざまな見方から⁵Cする人々によって、³たゆまぬ議論と反証が重ねられ、揺れながら、ゆっくり醸成されていったものなのである。それをつぶさに知ることは、もの見方の多様性を知ることになる。そのような視点、視角の多様性を自らのものとして持っていることは、想定外の現実への対応として必須のことなのである。

本来の勉強というものは、あるいは学問というものは、何かのためにするものではないのだろう。具体的に何かを解決するためにという目的のはっきりしたものは学習であり、学問とは学んで問うもの。何かの解決のためのものではないと思いたい。具体的な問題の解決のためにする勉強もあつていいが、具体的な目標を設定しない、もっとはるかに遠い未来に漠然と何かの役に立つ勉強もあり、それが⁴学問というものである。

(永田 和宏 『知の体力』)

注 外延 …… 論理学で、ある概念が適用される全範囲。

たとえば「魚」という概念の外延には、イワシ・マグロ・アユ・ウナギなどが含まれる。

問 1 ——線部 1 「知の体力」とは何ですか。本文中の語句を用いて二十五字以内で答えなさい。

問 2 ——線部 2 「弾力的な知識」とは、どのようなものですか。本文中の語句を用いて五十字以上六十字以内で答えなさい。

問 3 空欄 A、B、C に入る適当な語を次の中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

ア カバー イ プロセス ウ アプローチ エ コンテンツ

問 4 空欄 I に入る言葉として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 他人 イ 自分 ウ 専門家 エ 素人

問 5 ——線部 3 「たゆまぬ議論と反証が重ねられ」とあるが、議論と反証を重ね、目的に向かうとすることを意味する熟語を本文中から抜き出しなさい。

問 6 ——線部 4 「学問」とはどのようなものか、「学習」との違いを明らかにして五十字以内で答えなさい。

四 インターネット上に匿名で書き込みをすることについて、あなたの考えを賛成・反対の立場を明らかにして、百字以上、百二十字以内で述べなさい。